

## 平成24年度 倉吉農業高等学校 第三者評価 評価書

### 【講評】

倉吉農業高等学校は自然豊かな丘陵に広大な校地と施設・設備を保有し、使命と期待のもとに農業教育をはじめとするあらゆる教育の場として、教職員の情熱と信念で教育目標の「豊かな感性を育て、基礎基本を大切にして知の修得に努め、自らの可能性を信じて不断の努力を惜しまない生徒の育成」が授業・課題研究・部活動・進路指導等を通して図られている。

今後は、進んで行く少子化と後継者不足を解消する農業の重要性を再認識し、様々な問題に対応できる力を持った社会人の育成を目指していただきたい。生徒一人ひとりの個性を生かして指導内容の充実を図るとともに、安易な妥協や自己満足感に陥ることなく、社会の急速な変化に対応しスピード感のある新たな事業展開を期待する。祥雲寮やその他の施設の有効活用、県内外等からの生徒の受け入れなど、学校関係者の理解と連携により、目指す姿への学校運営改革が求められる。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

- ① 127年の伝統に生まれ、自然豊かな環境と多くの施設・設備を活用し、寮・授業・寮での共同生活・農場当番・課題研究等、3年間の農業教育と進路指導は地域社会に貢献できる人材育成の場となっている。
- ② 定数・学級減の影響を受ける中で、少人数編成授業や少人数での部活動など、生徒の特性に合わせた家庭的で適切な指導が行われており、就職・進学内定率100%に向けて努力している点は評価に値する。
- ③ 「学校カレンダー・学校通信・倉農新聞・HP」の作成は、広報活動として内容も充実し、教職員の熱意が感じられる。また、倉農祭や学校開放は保護者や地域の理解と連携を深めており、学校の活動実績がTV・新聞等で何度も取り上げられていることも評価できる。
- ④ 重点実施項目である「農業の6次産業化」は、学校全体で目的を共有し、未完成ではあるが倉農の目指す教育活動の姿として、生産物の育成・加工・販売・資源の再利用等の技能伝承と新技術開発により、少しずつ具現化されている様子がうかがえた。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

- ① 生徒・保護者に対するアンケートの結果は良好であるが、その活用は各教師に任せられ、学年・学科別の内容で分析されておらず、教職員のアンケートは未実施で学校全体の運営に活かされていない。結果を生徒にも開示して授業改善に活用する等の改善が望まれる。
- ② 広大な校地や、施設・設備を活用した授業や寮生活等の、教育環境は整備されている。しかし、限りのある予算の中で農業のグローバル化や少子化による生徒減に対応していくためには、新たな発想で教育委員会や地域との連携強化を図り、幼少期から農業への興味を高めたり、県外からの生徒受け入れや外国の生徒との交流などを行うことにより、生徒数の確保や教育内容の活性化を図る必要がある。
- ③ 様々な課題を持つ生徒に対しての、保護者や地域の要望に応えようとする学校の取り組みは理解と評価はできる。しかし、指導が滞っている部分も見受けられることから、生徒に目的・目標や課題・楽しさを理解させ、やる気を引き出す指導内容が求められる。
- ④ 農場当番や施設管理において専門教科の人事異動の固定化から、一部の業務が若手教職員に集中している。施設の維持管理や新技術開発等の業務については、外部機関との連携強化や専門職員の増員を県教育委員会に要望することが必要である。
- ⑤ 読書・補習授業・自宅学習等、生徒の能力や進路に合わせた教育が十分になされているとは言えない。学力や生活態度の更なる向上のために、保護者の理解と学校全体で取り組む質の高い進路指導が必要である。